

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

ともゆきの家

日付 平成 20年 3月 31日
特定非営利活動法人

評価機関名

ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 在宅介護経験9年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「太陽と仲良しになろう。外の空気を腹一杯吸おう！」今日は、一日中しょぼしょぼ雨が降る。こんな日は、もうどうしようもないが、お天気の日も冬の寒い日であろうが、午前と午後、散歩に出かける。午後はお茶とおやつを持って。とびきりお天気の良い日は、手作り弁当を提げて、みんなでピクニックだ。みんな一緒に良い。「一緒に、何でも行動して下さい」と願う家族の要望も受けて、動き難い人も必ず一緒に何処へでも行く。ある日は八塔寺へ、ある日は一本松へと、思いついたら百年目とばかり、直ぐに出かける。00さんが「墓参りしたい」と言うので、みんなも一緒に連れなっていく。00さんの家族が喫茶店をしているので「行ってみよう！」となる。利用者が近くの人達なので、散歩のついでに、といった風に家にも墓にもお出掛けしている。こんなグループホームがあったらいいな、と思っていたら、ここにあった。私が将来入りたいホームである。

00さんと さんは同姓なので、ご夫婦かしら？と密かに思っていたら親子さん達だった。「帰ろうや、暗くなるよ」とお母さんが優しく声掛けする事もあれば、親子の口喧嘩もしょっちゅうだ。「息子に怒られる」という事も多いのに、ちょっと姿が見えないと、周囲のみんなに「は、何処に行ったか？」と尋ねまわる。こんな幸せな親子の温もりのある暮らしを、このホームは支えている。こんな、あったかい所に、私も入りたい。

このグループホームを立ち上げた代表者夫妻は、かつて母親が入所していた大型施設のケアに疑問を抱いて、この地に介護保険導入と同時に拠点を築き上げた。他業種の仕事からの参入で、思い切った決断の中、看護師の資格を持つ妻の力量も加担して、母と00さんの二人の入居が自宅リフォーム後始まった。そして今から2年程前、その拠点から少し離れたこの地に、ペンションか？プチホテルか？と想像するグループホーム「ともゆきの家」を誕生させた。「利用者さんの親類の人からも、あんなええ所に入っとんなくて」と言われるような、素敵なお所にしたいと、妻は拘りを持って建物の設計に力を入れた。内部の造りは一つ一つからその思いが伝わって来る。こんな思い入れの深いホームで暮らす利用者の方々は、のんびり、ゆっくり、幸せな日々を満喫しているようだ。

特に改善の余地があると思われる点

利用者それぞれに生きてきた入居前の歴史を、本人・家族から出来る限り早い段階で聞き取りメモしておかれては、と思います。入居後の記録はしっかり出来ているが、トピックスや会話等、残したいものを特集しておけば、後々、見易く役立つのではないのでしょうか。

電話連絡等のメモはノートにしてよく残せているが、家族へのたよりもコピーして残しておけば、これも良い記録や歴史となるでしょう。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：この地域の実情から言って、認知症ケアに対する理解や啓発には時間が必要と思うが、改善項目にもあるように、少しずつ積み重ねていって欲しい。先ずこのホームを知って貰う事が大切だろう。</p> <p>2、全体的にみて…：代表者の母親が以前施設に入所していた時、施設内の臭いと人間的な扱いをして貰えていない事の経験が、このホームの理念に反映されている。「愛情と尊敬を持って接し、お年寄りにとって何が最良かを一緒に考え、明るい笑顔のある暮らしを実現させたい」との願いは代表者及びスタッフ間でよく共有し実現している。「職員が高齢者のお世話をしている」といった感じではなく「反対に、教えられる事も多いし、お年寄りから命を頂いているのになって思います」の言葉に、このホームが目指すものを感じた。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：生活空間は現状で十分と考えられる。改善項目なし</p> <p>2、全体的にみて…：このホーム唯一人の男性利用者の〇〇さんは、少し痛そうな足を庇いながらも、各居室の小さな花瓶の水換えを一手に引き受けている。「この赤い花、可愛いな」と私に指差しながら小菊を見せてくれる。とても優しい笑顔だ。「水がこぼれたら拭けばいいし、落として割れてもどうって事ない、だいたい皿を割るのは職員の方ですから」という事だ。こんな利用者スタッフの住む喫茶店のような「マイホーム」は、設計の段階から、又、建物内のあちこちに見られる手作りの飾り物に至るまで、創り手の愛情がたっぷり込められている。みんなで力を合わせて縫ったという照明カバー・クッションや、トイレの壁紙にも見られるような魚の絵いっぱいの遊び心が気持ちを和ませてくれる。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：改善項目ではないが、当面の小目標として「昨年骨折があったので、一層の見守りを」が挙げられている。今のままの積極的な生活リハビリも続けながら、細かい原因の分析と予防対策の意見交換をしっかりと実施したい。</p> <p>2、全体的にみて…：「私はな、たくさん島の土地を持つとったけど、別荘に売ってしまおうたんです。でも干坪残ってるんで、買ってくれんかな。売れたら、ここを出よう思うとんで」初対面の私に〇〇さんは商談を持ちかけてくる。「私はお金がないけど、お金持ちがいたら、話してあげます」と答えると、その後彼女は何度も念押しに側に寄って来る。こんな彼女の生き生きした言葉、やりとりをメモに残して欲しい。他の利用者の言葉も徐々に少なくなりつつあるのかも知れないので、今の内に話を一杯展開させ聞き取りメモしたい。将来的に表現が少なくなってきた時に必ず役立つと思う。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…：以前発行していた「ともゆきの家新聞」の復活や、以前出来ていた家族も含めた温泉一泊旅行を再現して交流を深めたいという願いは、実現目指して計画して欲しい。困難を伴うかも知れないが、成功すれば実りも大きいだろう。</p> <p>2、全体的にみて…：「年取ったら、食べる事が一番の楽しみよ」と話す人もいるが、このホームでは「食べる事」に力を入れている。おかずは少量ずつで種類多く、野菜もたっぷり使い、魚・肉も欠かせない。器にも拘り、おやつも大切にしている。このように「食べる事」と「日々の散歩・思いついたら、太陽と新鮮な空気を求めてピクニック」が皆さんの元気の源となっているのだろう。</p> <p>又、サービスの質の向上に向けて力を入れているのが、ケアプラン作成と実践・見直しである。本人の立場に立った願いや希望を綿密に拾い上げており、メンタル面についてもかなり踏み込んだ内容となっている。</p>		